



アニメの原点“北斎漫画”を活かした観光まちづくり ～子どもから大人までが楽しく回遊できる集客戦略の展開

帝京大学 経済学部 観光経営学科 大下ゼミ

国際観光都市づくりを目指している墨田区。2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、観光による国際交流をさらに進めるため、今回のレポートのテーマとした「葛飾北斎」を使ったまちづくりを展開しています。

■葛飾北斎は墨田区生まれ

葛飾北斎は有名ですが、墨田区生まれであることを知っている人は多くありません。また、アメリカのライフ誌が1999年に選定した「この1000年で最も重要な功績を残した世界の人物100人」の中に、日本人として唯一選ばれており、海外の人々にも広く知られています。

北斎は様々な数の記録を持っています。例えば「葛飾北斎」とは画号であり、生涯30回以上改号してきたことや、掃除が苦手な部屋が汚くなるとすぐに引越しをするという性格で、90歳までの生涯の内、93回も引越しをしていたことなどがあります。

また、北斎にはお栄という娘がいて北斎顔負けの美人画を描いていたといわれています。お栄の画号は「葛飾応為」といい、北斎がお栄のことをいつも「おーい、おーい」と読んでいたことが由来しているという説があり、これらのエピソードから北斎の面白い人間性と感性を感じられます。

■外国人観光客も多く来訪する「すみだ北斎美術館」

葛飾北斎生誕の地である墨田区に、2016年11月「すみだ北斎美術館」が開館しました。美術館ができた10ヶ月後には来館者数30万人を突破し、菊田館長さんの話では、来館者は日本人のみならず欧米など海外からの外国人観光客も多く来場しているようです。

美術館には、富嶽三十六景など「葛飾北斎」と聞いて浮かぶ著名な作品の数々の他に、「北斎漫画」も紹介されています。葛飾北斎を活かしてさらなる集客と回遊性を高めることが望まれる今、その取り組みの一つとして、北斎漫画を活用したまち歩き観光推進事業が進められています。



北斎作品の「江戸・新鋭アート」が展示されている近代的なデザイン「すみだ北斎美術館」

■4つの効果を期待した北斎漫画に着目した観光まちづくりの展開

2018年度の取り組みとして、北斎漫画を活用したまち歩き観光事業を進めました。その目的は(1)地域資源を活用した誘客、(2)インバウンドへの対応、(3)まち歩き観光の促進の3つです。

取り組みの内容としては、1つ目に商店街を中心に北斎漫画を展開。商店へ北斎漫画の掲出を行い墨田区に北斎漫画のイメージを定着させること。2つ目は商店街のお店でもらえる北斎漫画カード集めのイベントにより、北斎漫画を知ってもらうと同時に商店街を巡ってもらうこと。3つ目は北斎漫画を活用した「北斎観光体験プログラム旅行商品」を造成し、外国人観光客にも北斎漫画の良さを知ってもらうこと。4つ目は北斎漫画を活用して、地元の子供達に改めて自分達の街が北斎の街であると認識してもらい愛着を持ってもらうことの4つの効果を期待したものでした。



60以上のお店に北斎漫画のフラッグが掲出。このフラッグがカード集めの目安に!!

■小学生を対象とした北斎漫画クイズラリーの企画・運営に参加

2018年2月24日(土)開催の「北斎漫画ってなんだ?北斎漫画クイズラリー」に参加しました。私たち大学生は企画段階から関わり、実際にすみだのまちを歩いて子ども達が安全に楽しくイベントに参加してもらうための事前検討も行いました。

イベント当日は地元小学校に通う4年生～6年生と大学生でグループを作り、北斎漫画にまつわるクイズをまち歩きをしながら解き、参加した小学生からは「葛飾北斎や北斎漫画について学べた」という感想と同時に「もっとたくさんの人に葛飾北斎や北斎漫画について広めたい、知ってもらいたいと思った」という感想が多く挙げられました。小学生よりも私たち自身が楽しんでいたりもしません。自分たちも楽しめるイベントが大切、と改めて感じました。

(加藤永理奈・荒木悠杜)



お休み処でDVDをみて北斎を勉強の後、いざまちなかへ・・・。その後フラッグのお店を訪ねてカードをゲット!!
街角では、クイズの答えを解くための作戦会議が・・・?? これって合っているのかな??

